

研修会報告

2021年7月12日

文責：宮坂智充

研修会テーマ「COVID-19に関連した遺伝子検査の現状～変異株への対応を含めて～」

開催日時 2021年7月10日（土） 13：00～15：15

会場 Web研修会

司会 東北医科薬科大学 宮坂智充

生涯教育点数 20点

参加者 会員参加者：44名（講師、司会、実務委員を含む）、学生：1名、賛助会員7名

13：05～14：05 講演 1

「SARS-CoV-2 変異株の現状と検査体制」

東北大学病院 診療技術部 検査部門 中山 麻美 技師

14：10～15：10 講演 2

「秋田県ならびに秋田県厚生連由利組合総合病院における

SARS-CoV-2 遺伝子検査の現状と運用体制」

秋田県厚生連由利組合総合病院 臨床検査科 加藤 純 技師

15：15 終了

内容

刻一刻と変化する SARS-CoV-2 の感染状況に対して、検査室が対応すべき課題を把握し、各施設でより良い検査体制・感染対策を構築していただくことを目的とした研修会を実施した。本研修会では、宮城県内における SARS-CoV-2 変異株に対する検査の現状を学ぶとともに、秋田県ならびに秋田県厚生連由利組合総合病院における検査運用体制について学んだ。講演 1 では、SARS-CoV-2 変異株の分類と最新の流行状況、検査室における変異株検出の現状と陽性率、試薬の種類と価格、各種試薬の特徴、機器、検査運用体制について、実際に検査を行った経験をもつ中山麻美技師に講演頂いた。今後、各施設で変異株の検査を行う必要が生じた場合に、選択可能な試薬や体制などについて有益な情報を提供して頂いた。また、日々刻々と変化する変異株の最新情報にアクセスするためのツールについても教えて頂いた。講演 2 では秋田県ならびに秋田県厚生連由利組合総合病院における SARS-CoV-2 遺伝子検査の現状と検査運用体制について加藤純技師に講演頂いた。全自動遺伝子解析装置 GENECUBE（東洋紡）やランプ法を用いた検査の実際、検査対象の検体の種類について教えて頂き、SARS-CoV-2 遺伝子検査の内部精度管理や外部精度管理の課

題と問題点についても提起頂いた。講演後のディスカッションでは、参加者より山形県における精度管理の現状についても発言があり、今後の宮城県における精度管理に資する情報提供を頂くことができた。